

臨時総会 櫻井会長就任挨拶

ただ今、満場のご推挙をいただき、第 34 代全国町村議会議長会会長を拝命することとなりました宮城県利府町議会議長の櫻井正人でございます。全国会長という大役を仰せつかり、この上なく光栄に存じますとともに、その職責の重大さを痛感し、まさに身の引き締まる思いであります。

共に役員に選任されました副会長、理事及び監事の皆様と力を合わせ、町村自治の振興、そして全国町村議会議長会の発展に向け、全力を傾注する覚悟でございますので、各都道府県会長の皆様のご支援とご協力を切にお願い申し上げます。

会長就任にあたり、自己紹介と所信の一端を述べさせていただきたいと存じます

私の地元・利府町は、杜の都・仙台に隣接する人口 3 万 6 千人の町で、仙台都市圏のベッドタウン及び商業核としての機能を担う一方、日本三景の松島をはじめとする風光明媚な大自然を有する都市と農山漁村が共生する町です。

平成 23 年の震災の際には、この松島湾に津波が襲来し、甚大な被害を受けました。我が町でも他の被災市町村と同様、1 日も早い復旧・復興に向けて、人材と財源を集中しながら復興事業に取り組んで参りましたが、その間、全国の町村議会関係者の皆様には、励ましのお言葉と温かいご支援を賜りましたこと、被災町村を代表して、改めて御礼申し上げます。

さて、我が利府町には、プロ野球・楽天の 2 軍本拠地や宮城県総合運動公園などスポーツ施設が充実しており、来る 2020 年の東京オリンピック・パラリンピック大会では、復興五輪のシンボルとして、町内の「宮城スタジアム」でサッカー競技の予選が行われることになっております。

「復興五輪」の意義は、被災者に勇気と希望を与え、復興の力にすること並びに復興した被災地の姿を世界各国に発信することにあります。

そのためにも、五輪開催までの 3 年間で、復興の総仕上げに向けた事業を着実に推進し、被災地から「地方創生」のモデルとなるような成果を発信できるよう、東日本大震災並びに熊本地震からの復興につつまして、皆様のご協力を仰ぎながら尽力して参りたいと考えております。

また、平成 26 年にスタートした「地方創生」の取組みも、総合戦略の中間年に入りました。この取組みの根源にある人口流出、過疎化、少子高齢化、地域経済の

停滞といった問題は、まさに町村が直面する待ったなしの課題であり、これを克服することなしに、人口減少時代における町村の再生は成し得ません。若者世代が安心して、就労、結婚、子育てを行える魅力ある地域社会を創生できるよう、国と密に連携を取りながら地方創生を更に深化させる取り組みに邁進して参りたいと存じます。

その一方で、人口減少を背景として、地域によっては議員のなり手不足という議会制度を揺るがしかねない新たな問題も生じております。これには、職業との両立、選挙制度の在り方、低額な議員報酬などの複雑な問題が絡み合っており、簡単に解決できるものではございませんが、地方議会議員の位置づけの明確化、人材確保のための環境整備、地方議会議員の厚生年金制度への加入などあらゆる側面から打開策を探って参りたいと考えております。

このほかにも、町村議会議長会として取り組むべき課題を挙げれば枚挙に暇がありませんが、各都道府県会長にご意見を伺いながら、適宜、適切な機会を捉えて、政府・国会、政党に対し、町村の声を届けて参りたいと思っております。

これまで、飯田会長をはじめとする歴代会長各位が残された輝かしい歴史をしっかり受け継ぎ、町村議会の全国組織として、各都道府県町村議会議長会を通じて全国 927 の町村議会と連携を図りながら、更なる町村の発展に向け、鋭意努力して参りますので、重ねて、皆様のご指導とご鞭撻をお願い申し上げ、簡単ではございますが、会長就任にあたってのご挨拶とさせていただきます。

平成 29 年 7 月 12 日

全国町村議会議長会会長 櫻井 正人